

式 辞

厳しい冬の風が徐々にやわらぎ、光が春に向かって日一日と眩しさを取り戻している今日の佳き日に、御来賓並びに保護者の皆様方の祝福と励ましの中、北海道浜頓別高等学校第六回卒業証書授与式を挙行できますことを、心より厚くお礼申し上げます。

ただいま卒業証書を授与されました37名の卒業生の皆さん、御卒業おめでとうございます。皆さんは、本校の生徒指標のもと学習活動をはじめ、学校行事や部活動など、熱心にそれぞれの歩みを重ね、三年間にわたる本校の教育課程を修了されました。

体育館でのパフォーマンスで青春を爆発させた学校祭、オホーツク海を横目に風車を目指して走り続けた強歩遠足、自分の良さや課題をふりかえり、社会の中でどんな活躍ができるかを探り続けた進路の取組などは、後輩たちのよき手本として特に記憶に残っています。皆さんの努力に敬意を表するとともに、改めてお祝いを申し上げます。

また、保護者の皆様方にはお子様の晴れの卒業に心からお祝いを申し上げますとともに、その間、本校の教育活動に御理解・御協力を賜りましたことに厚くお礼申し上げます。学校としても立派に成長した卒業生を送り出せることを大きな誇りと感じています。

さて、卒業生の皆さんは、これから新たなスタートを切るわけではありますが、その輝かしい門出に際し、二つの期待を述べたいと思います。

一つ目は、皆さんを育んだ宗谷地方の豊かな自然を忘れないで欲しい、ということです。たとえば宗谷を代表する風景のひとつに牧草地が広がるなだらかな丸みを帯びた丘があります。この丘は人の力で一夜にしてできたものではありません。雨が雪が、霜が氷がとてつもなく長い年月をかけ少しずつ表土を削ってつくったものです。校舎が立つ浜頓別の広々とした平野もまた同じです。頓別川のおかげと言って間違いありませんが、その大もとは、中頓別町の山深くに湧くわずか一滴の水なのです。

このことは私たちに、小さな努力の積み重ねの大切さを教えてくれます。この先、めまぐるしく変化する日常や社会の中であって、自分を見失わず努力し続けることは難しいかもしれません。しかし、その努力こそがやがて大きな実を結び、皆さんのもとに戻ってくると私は信じています。

二つ目は、周囲への感謝を忘れず、新しい集団の中で力を発揮して欲しいということです。皆さんの中には、今までと異なる新しい環境に飛び込むことに不安を感じている人がいるかもしれません。しかし、思い出してください。様々な体験活動を通して、人間関係づくりの第一歩が「明るく暖かい挨拶」にあると学びました。気後れせず、笑顔でかけるひと声は潤滑油になります。そして自分ができることを探し、進んで取り組む。感謝の心を忘れない。これらによって皆さんは、新しい環境の中に溶け込んでいけるはずです。卒業生の皆さん、皆さんを支え励ましてきた家族、友人、先生方、地域の方々への感謝の気持ちを忘れず、本校の卒業生としての自覚を持って飛躍を遂げてください。

以上の二点は本校の目標のひとつである「開拓者精神を受け継ぎ、創意工夫の実行力を養う」と重なるものです。開拓者精神を柱とした目標は、他校に例を見ない浜高独自のもので、本校が過去五十年間、大切にしてきたものです。開拓者精神は、高校生にはやや遠く感じられるかもしれませんが、皆さんの深いところに確かに刻み込まれています。この先、困難に直面した時に、それを乗り越える知恵や勇気の源となるものです。ぜひ大切にしてください。

さて、二年生、一年生にとって卒業生は、自分たちのモデルであり頼りがいのある先輩だったと思います。皆さんには、先輩の思いを受け継ぐだけでなく、先輩を乗り越え、新たな浜頓別高校の伝統を築いてくれることを期待します。

なお、来月には本校は新入生を迎えます。これは例年の事ではありますが、卒業生と在校生の努力はもとより、生徒の力を伸ばす実践に取り組んできた教職員、それを受けとめてくださったPTAや同窓会の皆様、そして各教育委員会をはじめとする地域の皆様方のご支援の賜であります。この場をお借りして心より感謝申し上げます。

結びになりますが、卒業生の皆さんの洋々たる前途を祝し、また、これからの大いなる健闘を期待するとともに、本日御臨席を賜りました皆様の御健勝をご祈念申し上げ、式辞いたします。

平成29年3月1日

北海道浜頓別高等学校長 佐々木 淳